



●●●● 少女雑誌の部屋から ●●●●

3 月は新しい生活が始まる前の準備の期間でもあり、お別れの季節でもあり... 少し感傷的になってしまう方もいらっしゃるかもしれませんね。たくさんの大切な思い出はいつでもとり出せる心のひきだしにしまって、あらたな一歩を踏み出すことができますように。さて、今年は昭和 100 年にあたる年ということで、今月号では著しく経済が成長した昭和 30 年代にスポットをあて、主な出来事をふりかえることにいたします。

昭和を
ふりかえる！

昭和は 1926 年に始まり 1989 年に終わりました。そのあと元号は平成、令和と変わりましたが、もしも昭和が続いていると仮定すれば、今年は昭和 100 年にあたります。今回は昭和 30 年代にスポットをあてて主な出来事を振り返ります！

東京タワー

昭和 33 年 12 月 23 日、東京タワー完工式。ふもと港区芝公園から浜松町駅まで 1.5 キロの行列が続いた。展望台から首都を一望するために並んだ人々は総勢 5,600 人。タワーは着工から 1 年 3 か月のスピードで完成。エッフェル塔（当時 312 メートル）よりも 21 メートル高く、当時の自立式鉄塔としての世界最高記録を達成。昭和 34 年 1 年間の展望台入場者数は 519 万人で、当時の観光施設の集客数記録を塗り替えた。

家電（三種の神器）

「三種の神器」として当時の新しい生活習慣の中心に位置づけられたのが白黒テレビ、洗濯機、冷蔵庫。特に、白黒テレビの人気が高く、まだまだ高価品だった昭和 30 年代初期には繁華街や駅前、公園に街頭テレビが設置され、人気番組のプロレス、ボクシング、大相撲などが放送される時にはテレビの前に多くの通行人が群がった。昭和 30 年代なかばには富裕層以外でも手に入る価格帯に近づいたため、普及が進んだ。

皇太子ご成婚

（現在の上皇ご夫妻）

昭和 34 年 4 月 10 日、当時の皇太子・明仁親王と正田美智子さんの結婚の儀が執り行われた。同日のご成婚パレードに詰めかけた群衆は 53 万人。皇居から東宮仮御所まで 8.18 キロの道のりを移動する皇太子ご夫妻の様子がテレビで実況生中継された。明治時代以降初となる民間出身の皇太子妃の誕生に、国中が祝賀モードに沸き返り、前年からの“ミッチー・ブーム”は最高潮に。

週刊漫画誌の
登場

週刊誌ブームにのって昭和 34 年 3 月 17 日に初の週刊漫画誌が登場。講談社から『少年マガジン』が、小学館から『少年サンデー』が同時に創刊された。当初、少女向け漫画誌は月刊誌が全盛だったが昭和 38 年に講談社から『少女フレンド』※1、集英社から『マーガレット』※2といった週刊の漫画誌が創刊された。

※1…月 2 回発行→月刊に変更したのち
1996 年に廃刊

※2…月 2 回に変更 現在も刊行中

映画黄金期

日活スター、特撮、海外映画などなど

昭和 30 年代、映画は娯楽の王様だった。人々は毎月のように映画館に通い、スクリーンの中で繰り広げられる冒険活劇に熱狂し、人気スターたちの競演に胸踊らされた。テレビがまだ一般的ではなかったため、映画は新しい感動と興奮を届けてくれる最高の娯楽だった。最盛期の昭和 35 年には全国各地に 7,000 以上のスクリーンが存在するまでになり、当時の人々にとって映画館がいかに身近な存在であったかがわかる。

東京
オリンピック

昭和 39 年 10 月 10 日、アジアで史上初の開催となる「東京オリンピック」が開幕。開会式の舞台は大会のために大改修がなされた国立競技場。当時としては史上最多となる 93 の国と地域から 5,000 名を超える役員、代表選手が参加。日本は 20 の競技に出場し、金 16、銀 5、銅 8 のメダルを獲得。なかでも人々を熱狂させたのが日本女子バレーボールで、選手たちは“東洋の魔女”と呼ばれ大活躍した。